

令和6年度 助産師セミナー&交流会終了後アンケート結果

2025年3月27日記

結果分析・評価担当：本学看護学科 母性看護学・助産学領域

出村唯、吉原茉寿、巻島愛、山内まゆみ

調査方法：当日、インターネット（Google フォーム）によるアンケート項目の閲覧を依頼し、オンラインによる回答により回収した。卒業生9名、卒業生以外の助産師1名、在學生28名の合計38名の参加者に依頼した。

調査期間：2025年3月7日終了後～3月10日

回収数・回収率：38名（卒業生9名、卒業生以外の助産師1名、在學生28名）へ依頼し、36名から回収した（回収率94.7%）。

1.参加者数

■ 助産師セミナー（午前の部）：20名

内訳：卒業生9名、外部助産師1名、
在學生（4年生1名、3年生4名）、
看護職キャリア支援センター2名、
教員3名

■ 助産師交流会（午後の部）：40名

内訳：卒業生8名、
在學生28名（4年生6名、3年生6名、2年生8名、1年生8名）、
看護職キャリア支援センター1名、
教員3名

1. セミナー・交流会の参加人数の評価

助産師セミナー参加者は20名であった。そのうち、卒業生9名、卒業生以外の助産師1名、在學生5名であった。

本年度から始めて、近隣の助産師へのキャリアアップ支援を狙い、本学教育課程以外の助産師も参加を促した。その結果、市内の助産師1名の参加があった。

助産師セミナーの内容は、訪問型助産院 Pono 伊藤彩院長を招き、テーマ「骨盤ケア-妊婦の身体づくりに役立つ保健指導のポイントと産後の母親の身体回復に役立つ骨盤ケアの実際-」とし、講義・演習を行った。昨年度の参加者から要望のあったテーマの一つであり、臨床に活用できるテーマであったことにより、例年通りの数の卒業生の参加があったと評価した。近隣助産師の参加は1名にとどまったため、参加したくなるようなテーマの検討を引き続き行うこととする。

助産師交流会参加者は40名であった。そのうち、在學生28名、卒業生8名であり、例年同様の参加者数であった。

2. 本会のインフォメーション時期は、出席の有無を決定するのに適切でしたか。

表1 本会のインフォメーション時期

	計	%
早すぎる	0	0.0
適当	36	100.0
遅すぎる	0	0.0

2. 本会のインフォメーション時期の評価

回答者全員が適当と回答していることから、インフォメーション時期は適当であったと評価する(表 1)。次年度以降も同時期(1月中旬に案内、2月下旬に申込み締め切り)のインフォメーションを行う。

本年度、出欠の確認に Google フォームを使用した。申込者に登録完了のメールが送信される設定となっていなかったため、申込者から申込となっているか確認の連絡があった。次年度以降も Google フォームを使用していくため、登録完了のメールが送信されるよう設定する。リマインドメールは送信するよう準備する。

3. 開催時期は適当でしたか。

表2 開催時期

	計	%
適当	36	100.0
無理して参加した	0	0.0

3. 本会の開催時期の評価

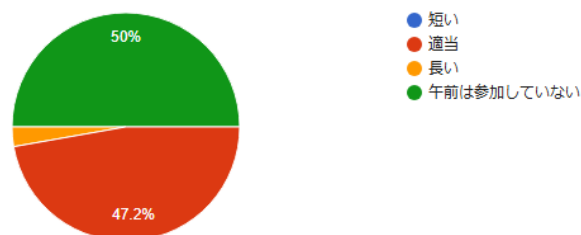
適当が 36 名(100.0%)であり、適当な開催時期であったと評価する(表 2)。

4. 助産師セミナー(午前)の開催所要時間は適当でしたか。

表3 助産師セミナーの開催所要時間

	計	%
適当	17	47.2
短い	0	0.0
長い	1	2.8
午前は参加していない	18	50.0

図1 助産師セミナーの開催所要時間



4. 助産師セミナーの開催所要時間の評価

適当が回答者 18 名中 17 名(94.4%)であり、適当な開始所要時間であったと評価する(表 3, 図 1)。次年度も休憩、所要時間で企画することとする。

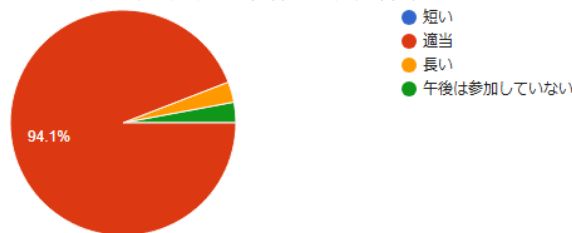
しかし、助産師セミナーの開催所要時間の回答(18 名)は、セミナー参加者人数より多い人数の回答となっている。セミナー不参加者がアンケートの入力している可能性があり、次年度はアンケートの入力項目をわかりやすく整理する。

5.助産師交流会（午後）の開催所要時間は適当でしたか。

表4 助産師交流会の開催所要時間

	計	%
適当	32	94.1
短い	0	0.0
長い	1	2.9
午後は参加していない	1	2.9

図2 助産交流会の開催所要時間



5. 助産師交流会の開催所要時間の評価

回答 34 名中、交流会参加者の 33 名について、32 名(97.0%)が開催所要時間を適当と回答したことから、参加者の交流が十分に持てた所要時間であったと考える(表 4,図 2)。本年度の交流時間は昨年度より 10 分多い 65 分確保しており、次年度以降も 60 分程度の所要時間を確保できるよう計画する。

6.【卒業生、現職助産師のみお答えください】本日の出席は業務範囲でしたか。

表5 卒業生：出席方法

	計	%
業務の範囲で参加	1	10.0
個人の時間で参加	9	90.0

6. 参加形態の評価(業務としての出席の有無)

卒業生の出席は、業務範囲内での参加 1 名 (10.0%)を除き、9 名(90.0%)が個人の時間での参加であった(表 5)。9 割の卒業生が個人の時間で参加しており、セミナー内容の興味・関心や、在校生との交流への意欲が高い者の参加につながったと評価する。次年度も、業務の一環としての参加者数が増加するよう、職場へ依頼文を示すなど、案内を継続し卒業生が参加しやすいよう配慮していく。

7.あなたにとってセミナー（午前）はいかがでしたか。

表6 セミナーについて

	計	%
興味深かった	15	100.0
役立たないと思った	0	0.0

7.8. 会の参加への肯定的評価の有無

助産師セミナー・交流会どちらも回答者全員が「興味深かった」と回答しており、参加者にとってセミナー・交流会ともに有意義なものであったと評価する(表 6,表 7)。

8.あなたにとって交流会（午後）はいかがでしたか。

表7 交流会について

	計	%
興味深かった	34	100.0
役立たないと思った	0	0.0

9.【在校生のみお答えください】以下の該当する項目すべてにチェックをつけてください。(複数回答可)

表 8	計	%
①助産師課程選択の決定に役立った	22	95.7
②助産師課程選択の決定に関係なく、助産師に興味を湧いた	3	13.0
③助産学を学ぶ意欲が湧いた	20	87.0
④今後の学習に役立つ方法やポイントへのアドバイスを聞いた	21	91.3
⑤就職情報として活用できた	16	69.6
⑥助産師になりたいと思った	16	69.6
⑦思っていた内容と違い戸惑った	0	0.0
⑧来年度も出席したいと思った	16	69.6

10.【卒業生のみお答えください】以下の該当する項目すべてにチェックをつけてください。(複数回答可)

表 9	計	%
①有意義な時間だった	8	66.7
②学生に助産師の仕事を理解してもらえるようアドバイスができた	2	16.7
③就職の勧誘に役立った	1	8.3
④明日からの仕事の活力に役立った	1	8.3
⑤思っていた内容と違い戸惑った	0	0.0
⑥来年度も出席したいと思った	6	50.0

11.10で「有意義な時間だった」とご回答された方は、どのような点でそのように感じましたか。<自由記述>

- ・有益な情報を聞くことができた点
- ・保健指導で実用的な内容だった
- ・実際に働く助産師の方と気軽に話すことができてよかった
- ・骨盤ケアが妊婦健診に役立つ内容でした

12.助産師セミナー&交流会の内容の希望、意見、改善点等<自由記述>

- ・とても参考になりました。これからの学習をより頑張っていこうと思います。
- ・とてもスムーズな進行で素晴らしいセミナーでした。

9,10,11,12. 両会に対し有意義と感じた内容(在学生、卒業生)

設問 9 より、23 名の在学生から回答を得た(表 8)。在校生にとり、助産師課程選択の決定に役立ったが 95.7%、今後の学習に役立つ方法・ポイントのアドバイスを聞いたが 91.3%、助産学を学ぶ意欲が湧いたが 87.0%と 8 割以上の在学生が回答しており、次年度も伝えていく必要がある。また、就職情報の入手、助産師になることについて、効果的に働いたセミナー&交流会であり、来年度も出席したいという思いにつながっているとも評価した。

設問 10 より、12 名の卒業生から回答を得た(表 9)。8 名(66.7%)の卒業生にとって有意義な時間であり、6 名(50%)の卒業生が来年度も出席したいと回答した。卒業生にとり、セミナー・交流会が有意義なものとなるよう次年度も計画を進めていく。